

あさぶ商店街の取り組み

麻生商店街振興組合 事務局長 ^{なら} 奈良 ^{まさひこ} 正彦

麻生商店街振興組合は、平成 25 年に創立 40 周年を迎えました。これを機に、40 周年記念誌の発行など、いくつかの記念事業を実施しました。

その中からいくつかをご紹介しますと思います。

まず、麻生商店街の新しいマスコットキャラクター「あさぶー」です。



平成 25 年 12 月に商店街の新しいキャラクターのデザインを一般の方から募集し、審査も一般の方からの投票と実行委員会による審査によって決めたものです。採用となった「あさぶー」は、「麻生」が正しく呼ばれていないことに少々怒っていて、「『あざぶ』じゃないよ、『あさぶ』だよ!」というコメントを发しています。

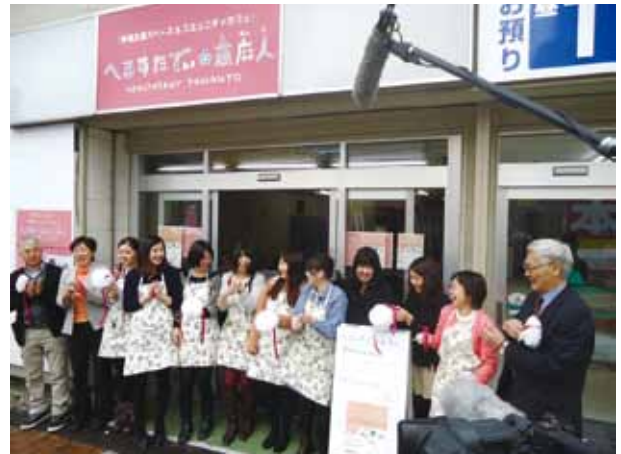
札幌にお住まいの方でも、「あざぶ」と呼ぶ方が相当数いらっしゃるかと思います。

まずはここ「麻生」を「あさぶ」と正しくよんでいたことが大事ではないのか、と考えた次第です。

平成 26 年 7 月に、麻生まちづくり協議会主催の「あさぶ三世代げんき広場」が麻生球場にて開催されましたが、「あさぶー」はここで着ぐるみとなってデビューしました。その後もあさぶ夏まつりやおすそ分けマーケットなどの地域の催しや、JR 札幌駅地下街アピアでの交通安全推進協議会主催の「冬の交通事故“シャットアウト”キャンペーン」などにも出演しました。

今後、商店街の各種イベントに登場するとともに、新しい商店街の顔として地域住民の皆様にもっと親しまれていくよう、がんばっていかねばならないと思います。

つぎは、「藤^{とまん}麻人」と「りあん」です。



平成 24 年 11 月に、札幌市の「商店街再生事業 学生アイデアコンテスト」が開催されました。11 チームがエントリーする中で、藤女子大学食物栄養学科の学生のアイデアが準グランプリを獲得しました。この学生たちのアイデアを商店街の新しい活性化対策のひとつとして、学生と協力しながら事業化に取り組みました。平成 25 年 3 月にプレオープン、平成 25 年 8 月に「へるすたでい藤麻人」として正式にオープン、平成 26 年 4 月には店舗名を「りあん」（フランス語で【つながり】を意味します）として営業を継続しています。

一人親家庭の子供たちへの学習支援と大学生が考えた栄養バランスのよい食事の提供、さらに地域の皆さんに商店街の様々な情報を発信していくスペースとなれば、と考えての取り組みです。（麻生キッチンりあんについては、33 ページの記事でも紹介しています）

つぎに、いわゆる「はしご酒」イベントの取り組みです。麻生商店街は居酒屋や焼き肉店、バー、スナックなど



の飲食店が約 100 件ほどあります。

これだけ多くのお店があり、それぞれ

特徴のあるサービスを提供していますので、なかなかその全部を知ることは難しいでしょう。商店街にある様々な店舗の魅力を、できるだけ多くの方に知ってもらうことは、商店街が取り組むべき大事な事業です。

これまで麻生商店街ではこのような飲み歩きイベントを実施したことはありませんでしたが、平成25年に「あさぶらっと」と題して、初めてこのような飲み歩きイベントを実施しました。この「あさぶらっと」は約30店舗ほどの居酒屋や焼き肉店、バー、スナックなどのお店の参加協力を得ての実施で、これまで行きたいと思っていたお店を気軽に訪問し、そのお店の魅力を知ってもらう、という企画です。このイベントを通して、少しでも多くの方が麻生のまちの、いろいろなお店に関心を持っていただけるとすれば、麻生はこれまで以上に賑わうのではないかと思います。これからも、さらに多くのお店の参加により、街区を訪れる皆さんに喜んでもらえるよう、取り組んでいきます。

平成26年7月から、4回にわたって「おすそわけマーケット」を実施しました。

その前年、「サッポロ フューチャーセッション」というイベントが札幌市主催で開催されました。イベントの趣旨は札幌の商店街の新しい役割や可能性を考えていこうというもので、「麻生おすそわけマーケット」はその中から生まれたアイデアでした。

麻生は札幌でも有数の商業集積エリアであるとともに石狩、当別方面と札幌中心部とを結ぶ交通の要衝で、地下鉄の最終駅、バスターミナル、JR新琴似駅が集中し、多くの通勤通学客が麻生を経由していきます。

つまりは、麻生商店街は、麻生地区のみならずこれらの地域の皆さんにとっても重要な商店街となっています。いわば地域を超えた交流の場となっている「おすそ

わけマーケット」は麻生商店街にとっても非常に重要なことだと思います。

さて、ちょっと変わった取り組みとして、商店街区にあるお寺を会場として落語を聞いていただきました。

題して「おてらくご」です。

麻生地区も少子高齢化が進んでいるとの事ですが、商店街にとってもこの問題は非常に大きな課題です。

麻生は人通りが多いといっても大半は通勤通学客です。街として楽しむ場所、発見する場所、学ぶ場所、安らぐ場所であったらいいな、と思います。そのためには、何が必要か、どうすればよいのかを考えていきたいと思っています。



さて、この「おてらくご」ですが、平成26年11月に実施しました。生の落語を聞くチャンスは、そうそうあるものではありません。きっと皆さんに喜んでいただけていると思っての実施です。参加者は200人以上、さまざまな年齢層の方に来ていただくことができました。

麻生商店街は、地域との連携を強めながら、その特徴と魅力をアピールしていかなければならないと思います。他方で、地域を超えて様々な方面との繋がりや役割を担わなければならないと思います。

あさぶという地区を知ってもらうこと、麻生の色々なお店の魅力を知ってもらうこと、近隣近郊の皆さんと交流を深めていくこと、安心安全なまちづくりや賑わいと活気のある商店街の創造が求められていると思います。



○お問い合わせ

麻生商店街振興組合

TEL.011-707-9923